

だいすきな中央保育所へ 5年間、思い出をありがとう



中央保育所のはじまり

昭和44年に90人の園児が入所し、三戸町立中央保育所の歴史が幕を開けました。

中央保育所は、保育指針「丈夫なからだ（育つ心）『あいさつのできる子・あかるく元気な子・思いやりのある子』」を掲げ、家庭的な雰囲気の中で心と体の健康や感性を育み、保護者や地域の人たちから信頼され、愛される保育所を目指してきました。

これまでに1105人の子どもたちを送り出してくださいました。

たくましく成長した 子どもたち

城山や名久井岳などの山々に囲まれ、ゆったりとした環境で育った中央保育所の子どもたち。春は園庭に咲く満開の桜の下で元気に遊び、冬には園庭の手づくりスケートリンクや雪山で楽しく体を動かすなど、四季を感じながら、子どもたちは、たくましく成長しました。

平成14年には、振り付けや衣装の用意など、保護者や地域の保存会の

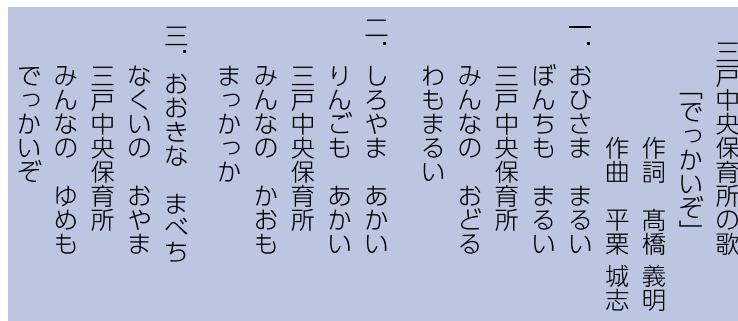
皆さんからの協力により、中央保育所オリジナルの「中央よさこいソーラン」が完成しました。その「中央よさこいソーラン」は子どもたちにより踊り継がれ、徐々に手が加えられて今では「火炎太鼓・よさこいソーラン・蒼き獅子」の3部作となり、メドレーとして発表を披露できるまでになりました。子どもたちは、朝夕と毎日楽しく踊っていました。

友だちと仲良く遊んで楽しかったことや嬉しかったことなど、この中央保育所には、笑顔溢れるたくさんの方たちが詰まっています。

中央保育所 最後の日

3月21日に行われた閉所式には、多くの人が出席し、中央保育所との別れを惜しました。式では、年長児11人が保育所のうた「でつかいぞ」を元気な声で歌い、閉所式に花を添えました。その後、「中央保育所51年のあゆみ」の映像が流され、参列者は当時を懐かしみました。

子どもたちは、園庭をかけ回り、歌声を響かせて笑顔いっぱい、最後の日まで楽しく過ごしました。そして、3月31日をもって51年の歴史に幕を閉じました。



地域の皆さんには、子どもたちが歌う四季折々の歌を聞いて、季節を感じていたようで、「元気な声が聞こえなくなつて寂しくなる」という声もー。保育所の先生たちも、子どもたちの笑顔が日々の励みになつていました。

子どもたちは、元気に楽しい時間を過ごし、多くのことを学んで成長することができます。この中央保育所で、子どもたちと過ごした時間は、私の宝物です。

これまで中央保育所にご協力いただいた皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



十七代目所長
渡邊 陽子

皆さんに感謝を込めて

►こちらの絵は、画家の田村まさよしさんが、中央保育所閉所に際し描いたものです。

